香美市立美術館 アートの窓

「杉浦康益 陶の花たち 展」

4月5日（日）～5月10日（日）

沙羅

大山レンゲ

ちょうど3年前になります。菊地寛実記念 智美術館（東京）に『杉浦康益 陶の植物園』展を観に行きました。会場には、チューリップの花束、山ユリ、クリスマスローズ、椿、山茶花、ボタン、睡蓮、ヒマワリなどの花々に加え、団栗、コブシの実、蓮の実、ザクロの実など、全て焼き物（陶）で造られた植物が並んでいました。一点一点を息を呑む思いで見つめ感動した事が、まるで昨日の事のように鮮明に思い出されます。

会場を去りがたく何周かした後出入り口に戻ると、華道家・假屋崎省吾さんとのトークイベントを終えた杉浦さんらしき人物が参加者を見送っていました。「杉浦先生でしょうか？」と声を掛けさせていただくと、初対面でしたが気さくに応じてくださいました。そして、「3年後だったら高知に行っても良いよ」と言ってくださり、本当に驚きました。

１９４９年東京都生まれの杉浦康益さんは、'75年東京芸術大学大学院美術研究科陶芸専攻を修了。'84年神奈川県真鶴町に築窯。『陶の石』『陶の木立』のシリーズ作品を発表後、10年前からアトリエの庭で丹精込めて育てた樹木や草花などをモチーフに『陶の花』シリーズを展開しています。

卓越した技術と精神力から生み出される『陶の花たち』。花々の一瞬の生命の輝きを、土と火の力を借りて、永遠の造形美として昇華結実させています。写真にある『沙羅』も、咲いたその日に散ってしまうはかない花ですが、透き通るような白い花びらが囲むめしべやおしべの構造は、息を呑むほどの美しさとエネルギーに満ち溢れています。

この春は、美術館に咲く神秘的な『陶の花たち』に是非逢いに来てください。ご来館をお待ちしております。

（館長・北　泰子）

吉井勇記念館だより

吉井勇特別蔵書展 ―暁―

短歌・俳句・小説・戯曲…勇の才能は幅広く、彼の活躍の場は多方面に渡りました。

そんな彼の文学世界とは一体どんなものだったのでしょう。貴重な雑誌を中心に、文人勇の多才な世界を紹介します。また館内では、普段目にすることできない吉井勇の作品を活字にしています。閲覧コーナーでゆっくりと勇の作品にふれてください。

【場所】吉井勇記念館
【期間】３月18日（水）～５月18日（月）
9時～17時　火曜日は休館

春のお茶会

山桜が咲き、猪野々にも春が訪れました。山間のうららかな春の日差しの中で、ゆったりとお茶を楽しみませんか。また、琴の演奏もお聴きいただけます。ぜひご来館ください。

【開催場所】
吉井勇記念館　渓鬼荘
【開催日時】
４月26日（日）13時～16時
【参加費】２００円
【問い合わせ先】
吉井勇記念館
☎58－２２２０